第７５回車座集会意見交換内容（中原区）

１　開催日時　令和７年３月１６日（日）　午前１０時００分から午前１１時４３分まで
２　場　　所　イベントスペースＫＯＳＵＧＩ１
３　参加者等　参加者１２名、傍聴者１名　　合計１３名

＜開会＞
司会：定刻となりましたので、ただいまから第７５回車座集会を始めさせていただきます。
　私は、本日の司会を務めます、中原区役所企画課、北條と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
　本日の車座集会は、「地域を守る！ 防災訓練アップデート ～新しい防災訓練を考える～」と題して、地域を守り、被災者にならない、助けられる側にならないための新しい防災訓練の実施に向けて、訓練内容等について、市長と参加者の皆様に意見交換を行っていただきます。
　開会に先立ちまして、この会場のご案内をいたします。
　この会場は、武蔵小杉エリアの地域活性化を目的としたコミュニティ型スペースで、三井不動産レジデンシャル株式会社様、ＰＩＡＺＺＡ株式会社様からお借りしております。ご協力ありがとうございます。
　それでは、次第１、開会といたしまして、初めに、本日ご参加の皆様から自己紹介をお願いします。皆様の情報につきましては、お手元の資料にございますのでご覧ください。自己紹介はお座りのままで、お名前をお呼びしましたら、膝の上のスケッチブックを立てていただき、お名前、ご所属と併せて、事前アンケートでお答えいただきました我が家の防災自慢と防災訓練の参加の有無についても教えてください。お１人様当たり１分程度でお願いいたします。
　それでは、名簿順に進めますので、初めに、阿出川様、お願いいたします。

阿出川さん：三井不動産商業マネジメント株式会社の阿出川と申します。よろしくお願いいたします。
　私は現在、東急線武蔵小杉駅に隣接しております、三井ショッピングパーク　ららテラス武蔵小杉の管理を行っております。
　我が家の防災自慢でございますが、すみません、我が家とは少し趣旨がずれてしまいますが、施設の防災自慢として、毎月１回、防災訓練を行っております。当施設では、２４時間、協力会社、警備会社、設備専門会社様にご協力いただきながら、２４時間スタッフが常駐しておりますが、当然のことながら、夜間に関しましては人数が少なくなっております。そういった中でも、有事がある際にはしっかりと施設の安全管理を行えるように、毎月１回、防災訓練を行っております。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、大西様、お願いします。

大西（絵）さん：おはようございます。雨の中ですごく寒いので、心が折れそうになりながらここまで来ました。かわさき市民放送、かわさきＦＭの代表をしております大西絵満といいます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
　かわさきＦＭなので、ラジオということで、川崎市の緊急放送、それから災害時の放送を担っている局でありますので、当然、防災、それから災害時の対策というのは、常日頃から備え、そして整理をしていく、アップデートしていくということをやっておりますが、我が家のことということで、我が家は、ちょっとだけ多めに食料を買って、古いものから消費していくというローリングストックを全面的にやっております。子どもが今２人おりますので、子どもの食べられるものがなかなかなかったりとか、好き嫌いがあったりと

かあるので、その辺をちょっと工夫しながらローリングストックをしているところです。
　防災訓練は、川崎市の総合防災訓練とか中原区の総合防災訓練は毎年参加をさせていただいております。今日はよろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、髙梨さん、お願いします。

髙梨さん：おはようございます。無印良品のグランツリー武蔵小杉のお店で勤務をしております髙梨と申します。よろしくお願いします。
　川崎市には、仕事が武蔵小杉になってから関係を持っている感じでございまして、まだ２年しか通っていないので、右も左も分からないと言いながら、分かっているつもりでこのイベントスペースに歩き始めたら、ずっと向こうのタワマンまで行ってしまいまして、どちらでしょうかと何度も聞いて、びちょびちょになって、遅刻、ぎりぎりで参りました。本当に申し訳ございません。これからしっかりと武蔵小杉の右左を勉強したいなと思っております。
　防災自慢に関しましては、手前みそなんですけれども、無印良品でございますので、大西（絵）さんもおっしゃっていましたけど、ローリングストック、これ、また時間がございましたら後で宣伝もさせていただきたいと思いますけど、レトルトカレー、当社いろいろレトルト商品を用意しておりますが、その中でカレーが大変人気で、これはもう何年前ですかね。１０年前ぐらいから、１つの防災用品として自宅に用意をして、ずっと食べ続けています。社員ですから当たり前なんですけどね。大変おいしいものですので、ぜひ皆さんにもこれからご紹介させていただきたいと思います。自慢というか、半分仕事みたいな毎日を過ごしている、無印の髙梨でございます。よろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、山口様、お願いします。

山口さん：ＮＥＣプロボノ倶楽部の山口と申します。
　今日は、会社はＮＥＣなんですけど、会社の立場ではなくて、有志コミュニティの代表としての立場で来ています。
　ＮＥＣ自体は本社が田町にあるんですけれども、中原区のほうに多摩川事業所というところがあって、実はそこに日本では一番多くの社員がいたりします。多摩川事業所は、横須賀線の武蔵小杉、あと南武線の向河原駅のところにあるので、アクセスはすごくいいです。私個人も１０年前ぐらいまで中原区民でした。今は横浜なんですけど、会社はここにあるので、よく来ています。
　我が家の防災自慢なんですけど、先の２人と一緒で、うちは水とお茶なんですけど、２リットルのペットボトルを常時３箱から４箱ぐらいはキープして、ローリングストックで飲みながらやっています。
　以上です。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、大西様、お願いします。

大西（真）さん：皆様、はじめまして。川崎市聴覚障害者情報文化センターの大西真木と申します。本日よろしくお願いいたします。
　我が家の防災自慢ですが、子どもが２人おりまして、一緒にボーイスカウトの活動をしているんですけれ

ども、そのボーイスカウト活動の中で、じわじわとキャンプグッズを買いそろえまして、一通りそろっているので、いざとなったら、何とかなるかなというふうに思っています。
　防災訓練の参加の経験は、業務でやっていまして、聴覚障害の当事者の皆さんと一緒に参加するというところで、川崎市の総合防災訓練はもちろんなんですけれども、中原区、幸区、麻生区と、それぞれの区で当事者と一緒に参加してきております。これからも続けていきたいと思っています。よろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、井倉様、お願いします。

井倉さん：おはようございます。橘高校２年生の井倉大凱です。所属が陸上競技部、陸上をしています。
　自分の家の防災自慢は、ねじで家具を固定していて、倒れないようにして、家族全員で工夫しています。
　防災訓練の参加は、小学校、中学校で経験しています。よろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、及川様、お願いします。

及川さん：おはようございます。橘高校１年生の及川萌衣です。陸上競技部で走り高跳びをやっています。
　我が家の防災自慢は懐中電灯なんですけど、ヘッドライトで両手が空くようになったものが家にあります。
　防災訓練は、学校で行われる防災訓練で経験しています。よろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、茅根様、お願いします。

茅根さん：おはようございます。橘高校１年、陸上部に所属しています茅根です。
　陸上部では主に１１０メートルハードルのほうをやらせてもらっていて、ちょっと自慢になってしまうんですけど、Ｕ－１６のジュニアオリンピックカップで２位、準優勝させていただきました。
　我が家の防災自慢になるんですけど、カレーとかカップ麺とかがいっぱいストックしてあって、古いものから食べるとか、そういった家の決まりがあります。
　以上です。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、楠木様、お願いします。

楠木さん：こんにちは、楠木と申します。武蔵小杉に住んで１０年になります。
　我が家の防災自慢というのは、お風呂の水をためることで、東日本のときもそうでしたし、宮城県沖地震のときもやはり水だったんですね。手を洗う、そういうときに限って水が欲しくなるので、取りあえず、揺れたな、これは大きいぞと思ったときには、取りあえずお水を入れて、一滴お水を入れるとそれで飲み水に変わるという液があるんですけど、それを一応持ってはいるのですが、やっぱりお風呂にためた水を飲むというのは抵抗があるので、ペットボトルの水を３箱、それプラス、揺れたぞとなったときにお風呂に水を入れるようにしています。今はちょっと平和なんですけれども、そういう地震があると怖いので、皆さんと協力しながら、いろんな情報を得ていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、国谷さん、お願いします。

国谷さん：おはようございます。洗足学園音楽大学に通っております大学３年生の国谷月紫と申します。
　今日は大学生として、大学からというわけでもなく、普通に区民として参加しております。
　我が家の防災自慢なんですけど、非常食をたくさん家に置いています。主に家族が置いている状況なんですけれども、私が何か関わっているとかではなく、純粋に家族がカップ麺を買ってきては、ためておいてくださっていて、賞味期限がそろそろ切れるぞみたいなものから食べていったり、私もたまに大学にそれを持っていってロッカーに入れておくなりして、大学でご飯が食べられるときにちょっと食べてみたりとかしています。よろしくお願いします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、笹田様、お願いします。

笹田さん：皆さん、こんにちは。笹田恵子と申します。よろしくお願いいたします。
　武蔵小杉在住１６年目でして、５４０世帯約１，５００人ですかね、住んでいるマンションにおりまして、理事の下のイベント委員、コミュニティ委員というものを１５年間やっております。そして防災委員もありますので、防災委員といろいろ連携しながら、フロア会ですとか、あとはマンションイベントで顔の見えるご近所付き合いみたいなものをモットーに、あと、縦の長屋という言葉を私どもはモットーにして、とにかくマンションの人たちが、どんな人が住んでいるのか、そんなことをモットーにしながら、マンション活動をしております。
　あと、しゃべる仕事をしておりますので、いろんな場所で、備える川崎という冊子を用いてその発信をしております。いろんな人たちに向かって発信をしております。
　そして、我が家の防災自慢なんですが、３．１１のとき、とても困りました。水が流れなくて。水のタンク、あそこ、意外と大とか小とか、すぐお水がなくなるということが分かりました。なので、タンクの横にペットボトル、２リットルのペットボトルを１０本ぐらいタワーみたいに立てておいて、それは飲み水ではないので、もう全然取り替えていないんですけれど、そういった工夫をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございました。
　続きまして、冨吉様、お願いします。

冨吉さん：ありがとうございます。冨吉と申します。
　２０１９年から小杉のほうに引っ越してきまして、約６年在住しております。マンション、近隣のマンションに住んでいるんですけれども、毎年総会に参加していましたら、ぜひ理事になってみないかと言われ、２０２１年から理事になり、及び理事長になり、約４年務めているような状況です。でも、本日に関しては、理事長というよりは、１区民として参加をさせていただいています。
　防災というと地震のところがすぐ目に浮かぶかと思うんですけれども、それ以外にも火災であったりとか、小杉特有の水災、水害ですか、そういったところもあるので、そういったところも今日、意見交換とかさせていただけたらと思っております。
　我が家の防災自慢というところで、皆さんもう大分出てしまいましたが、ちょっと一度発表させていただきます。デデン。食料のローリングストックとカセットコンロの常備というところを書かせていただきまし

た。もうさすが、やっぱりこういったところに来られる皆さんなので、ローリングストックという言葉がすぐ出てくるというのがさすがだなと思っております。併せて、僕のほうがカセットコンロの常備というところで、やっぱり火が、ガスが使えなくなったときに、カセットコンロ、重要になってきます。ただ、ガスがどこに、カセットコンロがどこにあるかというのが分からなくなったりしないように、毎年冬場になるとカセットコンロを使って鍋をやるというので、ガスの交換もできるし、コンロの場所も分かるというところで、日常の延長にそういったものを取り入れるようにしております。
　私からは以上になります。

司会：皆様、ありがとうございました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
　続きまして、行政からの出席者を紹介いたします。
　初めに、福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いします。

司会：続きまして、板橋茂夫中原区長でございます。

区長：よろしくお願いします。

司会：板橋区長には、我が家の防災自慢を一言お願いします。

区長：いつも中原区のために皆さんありがとうございます。
　私の防災自慢ですけれども、皆さん出ていましたけど、家具は必ず備付けでということでやっていますが、備え付けたはいいんですけど、扉が開いているのは意味がないなというふうに思っています。そこはきっちり整理しないといけないなと思っています。あとは、必ず枕元には着替えを置いて寝るということをしています。それと、あと、ペットがいるので、ワンちゃん用の非常用持出し袋を玄関に置いてあるということと、もう皆さん出ていましたけれども、水はローリングストックでということで備えています。
　防災訓練の参加はマルになっていますが、実は地元の訓練には一度も参加したことがありません。改めて参加しなきゃいけないなというふうに思いました。
　以上でございます。

司会：ありがとうございます。
　それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶申し上げます。福田市長、お願いします。

＜市長挨拶＞
市長：ありがとうございます。僕だけちゃんと我が家自慢を書いていなくて、すみません。
　カセットコンロの話がありましたけれども、僕も、カセットボンベ、あれは結構多く、常に持っておくようにしています。この前見たら５本ぐらいしかなくて、常に大体１２本は用意して、ちょっと持ち過ぎて危ないのかなというふうに思ったんですけど、いざとなったらご近所にも渡せるなとかというふうなのがあって、意識をしております。
　改めて今日はよろしくお願いいたします。
　今日のテーマ、防災訓練をアップデートするというふうな形ですけれども、ついこの間ですよね、３．１１から１４年目ということで、皆さんも、もう１４年たったんだというふうな思いがあると思うんですけど、

この１０年考えても、この前の、昨年の能登のお話もそうですし、熊本地震だとか、もう至るところで大きな災害が起こっているので、いつ私たちのところにということだと思うんですけれども、それにしても、川崎は本当に人口密度が極めて高いところ、大阪市に次いで、日本で２番目に人口密度が高い都市ですので、そういった意味では、能登との状況とはもう明らかに違う。また武蔵小杉のような、今、お住まいの、例えば武蔵小杉のタワーマンションだとかというところは、平家の多い地域ともまたちょっと違うということで、地域の特性に合った防災訓練というふうなのが必要なんじゃないかなと。全国一律だとか、あるいは川崎市一律でやっていくだけで本当に済むんだろうかという、板橋区長からの発案で、今回、このテーマでみんなで議論していこうということになりました。

活発な議論になりますように、皆さん、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

司会：福田市長、ありがとうございました。

＜車座集会の流れの説明＞

司会：それでは本日の車座集会の流れをご説明いたします。

この後、２、開催趣旨・災害の現状等について、中原区の現状や過去の地震映像をご覧いただき、続いて、大地震が発生した場合の中原区の被害想定や防災訓練の現状等を説明いたします。その後、休憩を挟み、１０時４０分頃から、３、意見交換を福田市長と行っていただきます。意見交換の終了時刻は１１時５０分頃を予定しております。

＜開催趣旨・災害の現状等について＞

司会：それでは、次第２、開催趣旨・災害の現状等についてでございます。

初めに、中原区の現状として、人口構成をお示しします。中原区は区内にある７５の町内会が５地区に分かれており、地区別と区全体、市全体の人口をお示ししたものです。区全体では１４歳までの年少人口が約１２％、１５歳から６４歳の生産年齢人口が７２％、６５歳から７４歳までの前期高齢者の人口が約７％、７５歳以上の後期高齢者人口が約９％と、年少人口、生産年齢人口が大多数を占めております。

その中でも、この建物がある武蔵小杉駅周辺の小杉地区に注目しますと、年少人口と生産年齢人口の割合が８５．６％で、川崎市全体の７９．７％と比較しても、若者世代、現役世代が多い地区でございます。

こちらは中原区の年齢ごとの夜間、昼間人口です。令和２年度国勢調査の数値でございまして、新型コロナウイルス感染症第２波後の１０月が調査日となっています。２０代から４０代の若者世代、現役世代はオレンジ色の昼間人口が低く、もし日中に震災が起きた場合は、人手は１５歳未満の子どもと６０歳以上の高年齢の方になってしまいます。

こちらは昼間流出人口の年齢別を市内の他区と比較したグラフです。中原区は２５から４９歳までの昼間流出人口が他の区よりも多くなっております。

そこで、本日皆様に車座集会にご参加いただいた理由についてでございますが、人口構成は若年層、働き盛り世代が多数を占めているにもかかわらず、防災訓練の参加者は６０代以上の方が半分程度と、高年齢の層の参加が多い状態です。また、その方々も、町内会、マンション理事会等の活動に参加されている方がほとんどで、参加者に偏りが見られます。本日はあえて現役世代で高層マンションにお住まいの方、学生の方、障害者を支えている方、子育て中の方、地元企業、商業施設の方にお声がけして、区民が参加しやすい訓練をするためのアイデアを伺い、意見交換をしたいと考えております。

ここからは災害時の被害想定、現在実施している防災訓練などの説明に入ります。説明は中原区役所危機管理担当課長の青柳から行います。

危機管理担当課長：中原区役所危機管理担当の青柳と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、発災から３０年を迎えた阪神・淡路大震災の発生直後のまちの様子を撮影した映像をご覧いただきます。本日は若い世代の方もいらっしゃいますので、改めて当時の様子をご覧いただきたいと思います。映像は２分程度になります。震災の映像が苦手な方は、ご覧いただかなくても構いません。場所は神戸市と灘区と長田区の映像でございます。映像をお願いします。

（映像放映）

危機管理担当課長：映像のスタートのところで、女性の声でガスが臭いとか、男性がおばあさんをおんぶしている様子、立ち尽くしている様子がご覧になれます。この後、男性がおばあさんをおんぶしている様子ですね。何もできずに茫然と立ち尽くしているかのような様子でございます。この後、住民同士の安否確認をしている様子が映ります。

今度は映像が変わりまして、場所が神戸市の長田区です。黒い煙が幾つも見えます。

この映像は、神戸市の職員が自宅から職場である市役所まで向かう途中で撮影したものでございます。車の渋滞、それから自転車で移動する方の映像が映ります。この後、荷物を持って避難する家族も映ります。

阪神・淡路大震災の概要でございます。

平成７年、１９９５年1月１７日の火曜日の早朝に発生した地震でした。まだ多くの方が寝ている時間帯に発生しておりますので、倒壊した家屋の下敷きとなり、多くの方が亡くなりました。また、倒れた暖房家電に再度電気が流れたことで通電火災が発生し、多くの場所で火災が同時に発生しました。先ほどの映像でも火災の様子はご覧になれたかと思います。

阪神・淡路大震災以降は、全国各地で震度７以上の地震が発生しております。また、今後発生すると思われる南海トラフ地震、関東で大きな地震被害を発生させた相模トラフ地震についても、しっかりと知っておく必要があります。まさに日本列島は全国どこでも大地震が発生する可能性があるということでございます。

それでは、中原区でどのような被害が想定されているのでしょうか。

この想定は、川崎直下で震度６強の地震が発生した場合です。

まず、建物の被害については、全壊が３，６２０棟、半壊が７，６４４棟、また火災が２５件、延焼で１，６０６棟が燃えてしまう想定となっております。中原区では、老朽化した木造住宅が密集する等々力、平間、住吉地区では、建物倒壊や火災の延焼が特に多く発生すると見込まれております。

次に人的被害でございます。建物倒壊で死者１０８名、負傷者が１，７７４名、火災での死者が１８名、負傷者が３０４名となっております。また、毎日多くの方が利用する武蔵小杉駅周辺では、通勤・通学者、あるいは買物客などで帰宅困難者が最大で１万４，１１３人発生すると見込まれております。

このような災害に備えるために、現在、中原区役所では、町内会などの地域の方をはじめとする関係者の方と連携して、毎年２回の総合防災訓練を実施しております。主な内容としましては、避難所開設運営訓練でございます。災害が発生したときに市役所職員が駆けつけられない場合、避難所の近隣にお住まいの町内会、自治会の皆様、学校、ＰＴＡなどで組織されている避難所運営会議が主体となって避難所を開設します。そのために、避難所の開設、受付、避難スペースの確保などの訓練を実施しております。

そのほかに、東京電力、東京ガスなどで、災害時にも大切となるライフラインを体験する防災啓発ブース、地震の体験、煙避難の体験など、災害を疑似体験できるコーナー、避難所で備蓄しているアルファ化米をお湯で作り、小分けし、配布する炊き出し訓練などを実施しております。

では、この防災訓練についてどのような現状があるのでしょうか。現在では、多様化する生活スタイルの変化、新型コロナウイルスの流行や高齢化の進展で、これまで行ってきた活動が止まり、その後の再開も以前ほど活発に活動できないということも起きております。

また、記載のある在宅避難の推奨など、これまで発生した災害の教訓や、建物、ライフラインの耐震化が進んだこともあり、防災対策にも変化が起きており、防災訓練も時代に合った訓練へとアップデートが必要となっております。

写真にある訓練は、これまでも積み重ねてきた防災訓練であります。今後もこのような訓練は必要でありますが、６０代の方が半数程度であり、町内会やマンションの自治会などの参加者が多数を占めている状況であります。そこで、今回の車座集会では、こうした現状を踏まえて、区民の皆様が参加しやすい訓練、区民の皆様が必要とする訓練、誰かに助けられるのではなく、誰かを助ける側になるための訓練、新しい防災訓練を一緒に考えてみましょう。

以上でございます。

司会：次第２、開催趣旨・災害の現状等についての説明は以上でございます。

先ほどもご案内のとおり、ここで次の意見交換に入る前に少し休憩を挟みます。１０時３５分まで５分間休憩をいたします。

（休憩）

＜意見交換　テーマ１　あなたが考えるこれから必要な訓練とは？＞

司会：それでは、次第３、意見交換に入ります。ここからは市長を交え、全員で意見交換をさせていただきたいと思います。福田市長、よろしくお願いいたします。

市長：よろしくお願いいたします。

それでは、まずテーマを２つに分けてということで、まず前段の、あなたが考えるこれからの必要な訓練とはということで、事前のアンケートで教えていただきましたタイムラインを基に、皆さんの生活の中で必要だと思う防災訓練、それから備えのアイデアについて伺っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、阿出川さんから、また先ほどの自己紹介順にずっと回っていくような感じでよろしいですか。

阿出川さんのタイムラインはこちらに載っているんですね。

阿出川さん：それでは、私のタイムラインからご紹介させていただければと思います。

まず、私の１日の流れ、７時半に起床いたしまして、８時には家を出て出勤をすると。９時半にこちらの武蔵小杉に着き、会社に着く。就業時間が９時半から１８時までとなっていますので、１８時に退勤して、帰路につきまして、大体１時間ほどで自宅に着きますので、帰宅という形になります。１９時からはプライベートを過ごしまして２４時に就寝というようなスケジュールになっております。

この中であれですかね。

市長：必要な訓練だとか、あるいは備えのアイデアということですよね。

阿出川さん：この中でいきますと、主に会社の中でいけば、勤務中に被災した際に、まずは会社の中での備蓄品の場所であったり、あとは周辺の避難場所というところをしっかりと確認しておく。あとは会社でいうのであれば、社内への報告等、しっかりと備えておくということが大事かなと思っております。

また、出勤時だったり、退勤時、あとは移動、外出は当然しておりますので、家族への連絡方法であったり等、しっかりと事前に確認をしていくというところが必要かなと思っております。

市長：ありがとうございます。
　続きまして、大西（絵）さん。

大西（絵）さん：私のタイムラインです。前にも表示されていますが、まず子どもが２人おりますので、子どもを小学校に１人で送り出して、その後、朝９時半までに保育園にもう１人を送り出すということで、その後、出社をして、会社の経営とはいえ、ラジオ局の番組の打合せとか、それから営業とか、地域の活動にお顔出しをさせていただいたり、打合せとかで結構外に出ていることが多いです。その後、夕方、退勤する、家に帰ることもあれば、割と会社の経営なので、そのままどこかのお店に行って会食をするというようなことも多いです。
　私のこのタイムラインで言うと、日中はそんなに、割と周りにも人がいたりとか、あとラジオ局にも人がいるので、何かあったときに緊急的に動くということができますが、やっぱり夕方以降とか、深夜早朝、この時間帯に何か起こったときに、例えば私が飲酒をしている場合、正しい判断ができるかなとか、スタッフが非常に少ない中で災害が起きたときにどういう対応ができるのかというのは、非常にひやひやするといいますか、これは本当にリアルにシミュレーションすることが大事、想像することが大事だなというふうに考えておりますし、人で対応する部分と、それから今だと、ＡＩシステムを使って放送を担っていく部分というのは、非常にバランスよく準備をしていかなきゃいけないなというふうに考えております。その辺りも整理をしているところであります。
　以上です。

市長：ありがとうございます。
　髙梨さん、お願いします。

髙梨さん：簡単なんですけど、朝起きて、家を出て、店舗で働いて、家へ帰ると。それの繰り返しを何年もやっています。
　何が必要かなと思っているのは、ずっと思っているんですけど、要は自宅にいる家族との時間のときと、それから仕事、お店にいるとき、あと移動中、災害というのはその３つの時間で起こるだろうと思っているので、それぞれのそのタイム、お家にいるとき、それから移動中、一番ここが悩ましいんですけど、それからお店にいるとき、この３つかなと思っています。
　店にいるときは、グランツリー、皆さんご存じの大きな商業施設ですので、それぞれの役割があって、お客様を誘導する、自分の立場としても、自分を守るももちろんなんですけど、施設の中にいらっしゃるお客様をどうするかという頭で動いているというのが、お店にいるときですね。
　それから電車に乗って移動しているとき、私、実は町田に住んでいますので、町田から小田急線で登戸を通って、南武線でずっと川崎に来るんですね。その間に何かがあったときというのは、何をどうしたらいいのかというのは、実は全然分かっていなくて、電車の、いわゆる公共機関で移動しているときには、自分が止まったらどこへ向いたらいいのかというのがあまり考えたことがなくて、何度も何度もいろんなところに移動しているだけ。移動時間というときの災害が起こったときというのは、多分皆さんもあまり想定がないんじゃないかなと。
　あとは自宅にいるとき、これは家族とどう連絡を取るかとか、家の中でどう決めているかということなので、自分が住んでいらっしゃる市区町村の中でその動きをするということで、３つの災害のバージョンというのを、我々は毎日考えていかないと、人のためにもならないし、自分も守れないだろうなと感じております。

以上です。

市長：なるほど、ありがとうございます。
どうぞ。

山口さん：ＮＥＣの山口です。私も大体タイムラインで書くと、皆さんとほぼ一緒で、７時に起きて、８時に家を出て、９時ぐらいに会社に着くと。でも、最近テレワークが多いので、毎日、月金で会社に来ているわけではないんですけど、会社に出るときはこんな感じですかね。帰る時間はまちまちなんですけど、平均すると８時ぐらいに会社、武蔵小杉を出て、９時に着いて２４時に就寝というような感じになっています。
皆さんのお話を聞いていて、僕が思うのは、今回のテーマ、防災訓練アップデートということなんですけど、中原区だけで２６万人もいるじゃないですか。年に２回、先ほどの説明で、防災訓練をされているということなんですけど、じゃあ２６万人みんなできますかというと、物理的に無理だと思うんですよね。
弊社、一応ＩＴをなりわいにしている会社なので、ぜひアップデートの防災訓練には、デジタル、バーチャルも使ってもらうといいんじゃないかなと思っています。具体的に、今ちょっと思っているのは、まだ構想段階ではあるんですけど、フォートナイトとか、マイクラとか、あとロブロックスとか、今、これをやっているユーザーは、世界中で１０億人ぐらいいるらしいんですよ。なので、そういったツールを使って、ゲームを使って、いつでもどこでもできるというのと、あと繰り返しできるというのが大事だと思うんですよ。
年に２回しか、物理はすごい大事だと思うんですけど、その２回、来られますかというと、来られない人が大半なので、ゲーム性、スマホとかパソコンとかで繰り返し繰り返しできるようなゲームな形で、実際にこの中原区だとか川崎市を、フォートナイトとかマイクラ上でつくって、ゲーム性で繰り返し訓練するみたいな環境が何かしらできれば、もっと皆さんの防災意識が高まるんじゃないかなというのと、別にみんな健常者だけじゃないと思うんですよね。障害をお持ちの方、高齢者もいらっしゃるので、そういった方にどうやって伝えていくかはあるんですけど、ＤＸ、ＩＴを使った防災訓練もあるんじゃないかなというのが１つと。
あと、先ほど中原区から外に出ていく、若い人が常にいるんだけど、でも会社とか学校で外に出ていくという話があったと思うんですが、逆に、私のように外から来る会社員とか、生産人口のメンバーもいるので、そういった企業市民と、あと中原区の皆さんとが連携して、有事の際に対応するみたいなスキームを準備できるといいんじゃないかなと思っています。

市長：ありがとうございます。
今、すばらしいアイデアをいただきました。２番目のテーマのほうに、区民がこれから新しい訓練をしていくにはどういうふうなのがいいですかというテーマにも踏み込んでいただきましたけど、すばらしいアイデア、ありがとうございます。
それでは、大西（真）さん、お願いします。

大西（真）さん：大西です。これは私自身のというよりは、ある聴覚障害者の１日というのをちょっと考えてみました。朝起きてからお子さんを小学校に送り出して、その後は新学期の学用品を買い出しにお買物に行きます。この場面では、耳が聞こえないけれども、お１人で行動するという形になります。午後は授業参観があるので、手話通訳者を事前に申し込んでいて、その通訳と待合せをして、授業参観は通訳サービスを利用して内容を理解する。通訳とは別れてご自宅に帰り、ご家族で夕食を食べて就寝するという、そんな１日を考えてみました。
どうしてもサービスとして通訳がそばにいるという時間は、１日の中にも限られていますし、全く通訳と

同行していない日もあるわけなんですね。そういったときに災害が起きたら、どんなふうに聞こえない方に情報を伝えることができるのかというのを考えていきたいなと思いました。特にお買物とかは、いろんな商業施設なんかに出向かれて、お１人でお買物をされているという場面もあると思うので、そういったときにどんなふうにできそうかなというのは考えていきたいなと思います。
　以上です。

市長：ありがとうございます。
　では、井倉さん、お願いします。

井倉さん：自分はまず６時半に起きて、７時半までに支度をして家を出て、８時１５分から、自分は朝に練習をしていて、そこから授業を受けて、部活をして、帰って、寝るみたいな形で、この中で自分が必要だと思ったのは、下校とか登校のときなんですけど、電車、自分は公共交通機関を使って登校しているので、そういったものがもし止まってしまったら、そこから家に帰るルートだとか、学校までのルート、途中で止まってしまったら、自分はまだ分からないところがあるので、そこのルートを自分の頭の中で覚えておくだったりとか、写真に保存しておくとか、あとは、家族とまず連絡を取る手段がなくなってしまったときのために、どこに集まるのとかを決めるというのも大事だと思っていて、自分の場合は、両親が別々の自営業をしているので、１つはチネチッタの方にお母さんの店が、川崎のところに店があるので、そこに行ってみて、お母さんと合流、会えるかなとか、あとは川崎まで行けちゃえば、自宅にも歩いて戻れるので、家族とのコミュニケーションだとかそういったところが大事だと思いました。

市長：ありがとうございます。
　井倉さんの話にしても、先ほどの髙梨さんの話にしても、やっぱり出勤・退勤時、登下校時というふうなのが、どの場面に、どういう災害に遭うかによって、どっちに行こうか、どうするんだろうというのは、なかなか難しい判断ということですよね。なかなかシミュレーションでき切れていないというふうなことを髙梨さんからもありましたけど、井倉さんからもすごくいい指摘をいただいたと思います。ありがとうございます。
　及川さん、お願いします。

及川さん：７時に起きて、家を出て、学校に着いて授業をしたら４時くらいから部活をして、帰って、自由時間を過ごしてから寝るという形になるんですけど、自分は学校に行ったときに災害が起きたら、学校に留まるのか、それとも家に帰るのかというところとか、帰るとしたら、どこで家族と合流するのかというところで、そこのコミュニケーションとかがまだできていないので、そこでしっかりコミュニケーションを取っていきたいなと思いました。
　以上です。

市長：ありがとうございます。
　ちなみに橘高校では防災訓練とかはやるんですか。

井倉さん：はい。

市長：どういう訓練をやっていますか。

井倉さん：教室から体育館だったり、グラウンドのほうに出るんですけど、そのときに学年ごとで階が違うので、どういったルートで出るのかだったりとかを訓練しています。

市長：なるほどね。要は一時退避訓練ということですね。まず教室から出て、体育館だとか、校庭だとかという、そこまでの訓練をやっているということでいいですか。ありがとうございます。
　茅根さん、それではお願いします。

茅根さん：自分も２人と同じようなタイムラインで過ごしていて、登校と下校なんですけど、自分は自転車と電車を気分で、その日によって分けていて、電車が止まったら、別に自転車で通っている道を歩いて帰れば家に着くしみたいな感じで、登下校中は特に不安というのはあまりなくて、自分たち３人はスポーツ科ということで、部活に主に一番本気で取り組んでいると思うんですけど、その部活中にそういう災害が起きたら、すぐに切替えができるのかとか、そういう、主に校庭にいるので、あまり移動することは少ないんですけど、そういったときに冷静な判断ができるかとか、どうすればいいのかという考え方が必要かなと思いました。
　以上です。

市長：ありがとうございます。
　それでは、楠木さん、お願いいたします。

楠木さん：私は家にいる専業主婦で、今は子どもも外に出てしまったので、夫婦２人の生活です。主人が出勤してからは、本当にもう全部自分の時間になってしまうので、お買物に行ったときに、無印さんとかをちょっとのぞいて、消費期限の長いものを買ってきたりとか、そういうふうにしてローリングするように、食べ物はしているんですけれども、そのほかには、ＮＨＫさんの災害情報を携帯に入れているので、それを息子のところと、中原区と、あと実家のほう、なので結構、私の携帯、いろんなとこでびりびり鳴って、この間も新幹線の中で鳴ってしまったりとかということがあったんですけど、取りあえずアプリの中に地震とか災害の情報が来るというのを一応入れておくというのと、あとはここに引っ越してから二度ほどあったんですけれども、私はずっと家にいるので、ヘルメットとビブスを着て、二度ほど外に出るということがあったので、どういう環境があっても、自分の体が空いていれば、皆さんの役に立てられるように、ちょっと動けるような体制をしたいなと思っています。
　あとは、物件を探すとき、主人が会社から自宅まで、歩いて取りあえず帰ってこられるようなところがいいよねといって武蔵小杉を選んだんですけれども、毎回ではないんですが、歩いて帰ってくることがあるようです。取りあえずそういう感じで、家の中では工夫はしているのですが。

市長：なるほど。すごく意識が高いですね。ご主人も歩いて帰ってこられるということを。

楠木さん：そうです。会社から。前は、ほかに住んでいたときは、やっぱり新幹線だったら通ったとか、あとは途中で降りたとかいうのがあったので、次に引っ越すときは歩いて帰れるようなところというのを探して、たまたまここがあったので。

市長：なるほど、ありがとうございます。
　それでは、国谷さん、お願いいたします。

国谷さん：私は、大体、高校生のみんなと同じように、起きて家を出て、大学で授業を受けて、その後、帰ってきて、アルバイトをして、またアルバイトが終わってから自分の好きな時間を過ごして寝るという感じなので、３人と比べて寝るのが遅いんですけれども、でも、学校に行くまでの道のりとかを歩いていくこともできなくはない距離感だから、その道は何度か歩いてみたりというのはやったりしました。

ただ、ちょっと個人的に心配だなと思ったりしているのは、やっぱり、アルバイト先が、今、塾で先生をしているのもあって、どちらかというと子どもたちが一緒にいる状況なので、守るべき子たちのほうが多くなるので、アルバイト先でどういうふうに対応すれば子どもたちを守れるかなとか、ちょっと狭い空間でもあるので、その中で自分の身も守りながら、子どもたちを守りつつ、アルバイト先の一緒に先生をやっている後輩たちにも、誘導をお手伝いとかするときに、何とか助けが出せないかなというのはちょっと考えたりはしています。

市長：ちなみに、アルバイト先では非常時のときの対応というのは何か言われたりするんですか。

国谷さん：いや、特に今のところ、私は言われていないので、もう本当に、今まで小学校、中学校でやった避難訓練のときの状況とかを参考に、何か地震が起きたら、先生がやっていたのはドアを開けていたから、じゃあ私もドアを開けられるようにしようとか、子どもたちは机の下に潜らせようとか、キャスターがついている椅子なので、それを持って、動かないように机の下に入ってねと言えるように思っておこうとかというのを考えたりしていますね。

市長：なるほど。ありがとうございます。

それでは、笹田さん、お願いします。

笹田さん：私の仕事で、結婚式の司会ですとか、イベント司会ですとか、現場がそれぞれ違うので、これは本当にとある１日のという感じなんですけれど、毎週木曜日だけは、必ずこんな感じで、かわさきＦＭさんでラジオの番組を１つ持たせていただいておりますので、このタイムラインになっております。

毎朝、絶対に５時半とか５時には起きて犬の散歩、愛犬の散歩に行きます。大体、原稿作りとかして、家にいて、この日は家を出ます。そしてかわさきＦＭさんで、ラジオ、ゲストさんとの打合せ、ラジオの生放送、そしてその後は、中原区役所さんの別棟で事務作業をやっておりまして、その後、大体７時半から８時に帰宅という、そんなタイムライン１日なんですけれど。

まず、愛犬との散歩道にもし地震が起こったら、犬を連れてどこに行けばいいんだろう。それを知らなかったんですね。なので、ちょっと調べたいなというところと、それから家の中は大体分かります、自分で。この日だったら、例えばゲスト様との何かあった場合、その場所で、今度は私が誘導する立場ですので、そういったこともちゃんと頭に入れておかなきゃいけないなということ。それから、事務作業をする別棟、中原区役所さんの別棟で、また家とは違った環境でやるわけですから、もしそこでドアが閉まっちゃって外に出られなかったら、周りに誰か助けてくれる人、備蓄品はあるのかなとか考えました。

そして、帰った後なんですけれど、私、今は娘２人がもう１人暮らしをしておりまして、主人も単身赴任中なので、１人なんですね。何かと言いますと、もし１人で倒れちゃったら、これは誰と連絡を取ればいいんだというところでは、最近本当に、まだやっていないんですけれど、お恥ずかしい。１７１のいないという伝言電話ですかね、あれを家族でちゃんと共有しておかないといけないなということと、今、私はマンションコミュニティを１５年間、やっておりますので、３．１１の後には、７０歳から９０歳のご高齢のお姉さま方との会を１か月に１回やっておりまして、皆さんがどういう立場で住んでいらっしゃるのか、もうパートナー様がいらっしゃらないとかそういったことも分かっていますので、今度は逆に、私が助けてあげる

方たちのドアをノックするとか、そういうことも、また改めて今後やっていきたいなと思いました。

市長：ありがとうございます。
　それでは、冨吉さん、お願いします。

冨吉さん：僕のタイムラインですが、僕もシフト制というか、土日、年末年始にかかわらず動いている会社なので、夜勤とかも含めて働いているので、あと日勤帯で働いているとしたらというタイムラインになります。
　起きて出社してというところにはなるんですけれども、皆さんも話されたように、家の中は別に大丈夫、あと会社は会社のこと、あればいいと、学校だったりとか、そこに合わせればよくて、出社時、退社時に電車に乗っているときとかに起きた場合は、どうなるかといったら、僕の場合は、別に慌てて帰らずとも、その場その場に合わせて行動すればいいかなと思って、やっぱり３．１１のときもそうだったんですけれども、帰宅困難者というか、渋滞であったりとか、道に人があふれたりとか、急いで家に帰ろうとする人たちで、二次災害じゃないですけど、そういったことが考えられることもあるので、必要のない方というか、別にとどまっていても、翌日帰ってもいいような人はそこでとどまるだとか、安全な場所であればですけどね。安全な場所でとどまるというような選択肢もあるかなと思っていますので、自分の場合はそうするかなというふうに。また、それを家族と共有しておくというところで、３．１１のときも、翌朝には電車が動いていましたので、それぐらいで動いて帰れればいいかなというようなところで考えています。
　会社であれば、もう会社のルールに従って動けばいいので、動き出したときに会社側に向かうのか、家に向かうのかというのは、そのときで、ケース・バイ・ケースで変わってくるかなと思っております。

市長：ありがとうございます。
　今、皆さんからそれぞれのご自身のタイムラインを見せていただきましたけれども、やはり先ほど、区役所のほうから資料説明がありましたように、昼夜間人口の、ちょっと見せていただいていいですか。そうですね。これだけ違うと。次のページを見せていただくと、中原区、やっぱり昼間いらっしゃらないという人たちが非常に多い。やっぱり通勤で川崎市を離れていらっしゃる方というふうなので、今、皆さんありましたように、こちらに働きに来ていただいている方もいらっしゃいますし、逆に出ていくという方たちもいるので、実際に住民がここに昼間いるかというと、意外と大人がいるようで、地元の人がいないということというのが、すごく中原区の特徴ですよね。
　さっき聞いて、そうなんだと思ったのは、令和２年の１０月の統計だということなので、コロナ禍ということがあるから、比較的家にいますというのが強めに出ているんじゃないかなということを考えると、もっと実は、昼間は人がいないんじゃないかというふうに思うと、ちょっとなかなか厳しいなと。
　必要な訓練というのを皆様からそれぞれコメントいただいたんですけど、結構いろいろありますよね。通勤時間、登下校の対応をどうしたらいいのかというシミュレーションができているか。あるいは、それが学校の対応と、それから勤務地の対応が合っているのか。例えば髙梨さんのお店の対応と、それから、テナントのビルというところの方針というふうなのが合致していますかというふうな話だとか、そうすると、無印良品の社内の規定ではこうなっているんだけど、商業ビルの中の対応と違っているだとかというふうなのを合わせる必要がありますねとか。いろんなのがありましたね。
　子どもさん、大西さんの話もそうでしたけれども、こちらの大西さんもそうですよね。子どもさんがいらっしゃるということなので、子どもたちの、自分と子どもの状況がかなり違っていると、時間帯によって。ということなので、先ほど、中原区の被害想定がありましたよね。もう１回ちょっと見せていただいていいですか。

夏の１２時設定で、こういう被害想定ですということなんですけれども、これ、全然違ってきますよね。冬だとか、朝なのか、夜なのかといったことによっても全然違ってくるということなので、あまりこれを一律的に考えないほうがいいと。ですから夏なのか冬なのか。朝なのか夕方なのか昼なのかということによって、ご自身のタイムラインと合わせたときに、幾つものシナリオが考えられるということというのは、ぜひ私たち市民一人一人がやっていかなくちゃいけないことなんですが、これから２つ目の少しテーマに入っていくんですけれども、一人一人がやることと、集団で、ある程度ターゲットを絞って、ここが弱いからやっていくということを考えていかなくちゃいけないですよねと思うんです。板橋区長に、今回の狙い、どこに持っていきたいんだということを少しコメントいただいてもいいですか。

＜意見交換　テーマ２　区民が参加しやすい訓練とするためには？＞
区長：ありがとうございます。
皆さんから大変すばらしいコメントをいただいたんですが、今、市長からもお話があったように、みんなで集まって、同じ条件でやりましょうというのが今の防災訓練なんですね。でも、今こうやって皆さんお話しいただいたように、皆さんの生活スタイルがばらばらで、暮らしているところも違いますし、仕事をしている、学校で働いている、違う状況だと思うんですね。それに合わせた訓練は何が必要なんだろうと。
もしかしたら、先ほど山口さんもおっしゃっていましたけど、集合してやる訓練じゃないんじゃないかなとか、もしかしたら家庭でやる訓練が重要なんじゃないかな、皆さん家庭は大丈夫というコメントがあったと思うんですけど、私は逆に家庭をどうするか、特に大西社長もおっしゃっていましたけど、子どもとの連絡をどうするかとか、今、まさにスマホだけで全てを済ませていますけど、実際にはもうスマホが使えないという想定で考えると、一体どんな訓練を各家庭でやっていただくことが重要なんだろうかということで、我々行政だけじゃなく、皆さんからいいアイデアが出ればというふうに思っています。ぜひその点を踏まえて、個々の訓練といいますか、ターゲットを絞ったような訓練を我々はやっていきたいなというふうに思っています。

市長：ありがとうございます。
今、区長がお話したように、年に２回、各区で総合防災訓練をやっています。それは七、八年前ぐらいから、今まで全市１か所だったというのを、各区で、それも各区の実情に合わせた訓練をなるべくやってくださいということで、区長中心に各区でやっています。
川崎区のように、海が近い平たんなところの訓練と、麻生区のように山坂がすごいあるところの訓練というのは当然違ってくるわけで、崖が多いところと全くないところ、多摩川に近いところ近くないところという、いろんな地域性がある中で、地域にそれぞれに合ったような形で訓練をお願いしますねとやっていただいているんですけど、さらに今、板橋区長からの提案というのは、もっとアップデートしませんかということなので、もう少しターゲットを切り分けていこうと。２６万の区民がいる中で、正直、みんなが避難所に行ったら、明らかにパンクするんですよね。そうじゃないようにするためにも、こういう方たちはこういうふうな避難をしてください、そのためにはどんな用意が要りますよねということを、もう少し、セグメントを分けて訓練していかなくちゃいけないんじゃないかということなので、それについて皆さんからもご意見いただきたいということでありました。
今日は、武蔵小杉の特徴であるタワーマンションにお住まいの方とか、あるいは高校生もいらっしゃっている、市内で、この武蔵小杉で働いている方もいらっしゃる、子育てしている方たちもいらっしゃるということなので、少し子育て、ちょっと幾つかありますけど、子育てしている世代の人たちにターゲットを置くということと、そうですね、タワーマンションでの訓練というところにターゲットを当てたいというふうなことと、それから、これは私もちょっとどうなんだろうなと思って、小中学校の防災、災害時の対応がある

んですけど、僕は把握しているんですけれども、そうだ、市立高校は、これ対応方針はどうなっていたんだろうなというふうなのが、ちょっと自分でも自信がない。というのは、高校生になると、移動距離が相当、地元の学校というよりも、かなり離れたところまで移動しているので、果たして、お父さん、お母さんが迎えに来てくださいということではないので、どういうふうにこれから動いていくんだろうなというふうなのは、ちょっとこれも考えどころだろうなということ。それから、もっと言えば、大西さん、聴覚障害の方の１日タイムラインを出していただきましたけれども、こういうようなスペシャルなニーズがある方というのはどうしていくのかということも少し触れていただくというような形で、少しテーマを分けてお話を聞かせていただければなというふうに思っていますが。

まず子育ての世代の方から、どういう訓練をしたら、もっと参加してくれるんじゃないのと。実は子育てされている方というのは、避難訓練にはあまり参加されていないというふうに思います。どういう方式のやり方だったら、ちゃんと届くんだろうか。別に訓練に参加するということじゃなくて、さっき山口さんが言ったような、ゲームで何度もやってもらうということもあるでしょうし、どういう形だったら意識が高められて、実際の避難行動、自分の身を守る、家族を守る行動につながるかということについて、少しアイデアをいただいてもいいですか。どんなことだったら参加できるんじゃないかなというのは、両大西さん、どちらからでも結構ですけど、お願いいたします。

大西（真）さん：先ほど、マイクラ、マインクラフトというワードを聞いて、もううちの子たちめちゃくちゃやっています。もう熱中してやっているんですよね。マイクラの世界の中で地震や火事の体験をして、どう切り抜けるかみたいなことがゲームになっていたら、もう日常的にゲームをやっているので、その延長でやっていくと思いますし、またそのゲームしながら、じゃあ家族とどう連絡を取るとか、待合せをどこにするとかというふうに、リアルな方向にもつなげていけるんじゃないかなと思ったので、マイクラに期待してしまいました。

市長：ありがとうございます。

大西（絵）さん：すみません。確かに今お話を伺っていて、子どもと防災訓練に参加するということは、すごいハードルが高いなというふうに思います。仕事柄、子どもを連れて現場に行くみたいなことが割と今増えているので、ただ普通に子育てをしていて、年中さん、年長さん、また小学生の１年生、２年生とかそのぐらいの子どもを連れて歩いていると、思ったようにいかなくて、おっくうになったりとか、さらに今の形の防災訓練だと、なかなか引っ張っていくのが難しいと。年齢が上がってくると、小学生の高学年、中学生になってくると、また子どもと一緒にというのが難しいなと思って、何があったらいいのかなと思っていたんですけど、今、すごく、非常に周りでもはやっているのがお仕事体験とか、体験系のワークショップというんですかね、そういうものは非常に盛んに中原でも開催されていたりとか、お子さんを連れて保護者の方が参加して、キッザニアのような、ちょっとゲームに近い感覚なんですけど、子どもを連れて消防士さんの体験をしようだとか、昨日もちょうど世田谷の防災訓練、防災フェアに行ってきたんですけど、やっぱりそういう何かを被らせたりとか、そのぐらいの程度のものは結構いろんなところであるんですが、そこをさらに踏み込んで、一緒に被災したという体験を親もする、子どもを連れて逃げなきゃいけないとか、はたまた、例えば誰かがけがをして、子どもがけがをしたときに、その後どうするのかというのが、今ちょっといろいろ考えてみると、そういう体験というのをして初めて、何が必要かと、どうしたらいいのかと分かるんだろうなと思ったんですけど。自分自身もそうなったときに、どうやって逃げるとか、また、介護なり看病をしながら、被災の生活を、避難所の生活をするのか、全然想像ができていないなと思ったので、体験型というのが、今の形と違う、ちょっとゲームのような何かこういうものがあるといいのかなというふうに思いまし

た。ちょっとすごいジャストアイデアで恐縮なんですが。

市長：いやいや、ありがとうございます。
　確かに、お仕事をされていない、専業主婦の方が、例えば幼稚園とか小学校、中学校の子どもさんが地域にいて、防災訓練を平日だとかにやって参加しましょうということと、仕事をされている方が、子どもさんがいて、例えば保育園に預けている、学校に通っているという、みんなが分散しているときの考え方、訓練の仕方って、当然変わってきますよね。状況が違い過ぎちゃって、一緒に子育て世代ということでくくれないような難しさというのは確かにありますね。
　なるほど。これはもう少し深掘りしていかないと、何となく、みんなにとって刺さらない話になりますよね。何かこれに足していただける方いらっしゃいますか。お願いします。

国谷さん：先ほどちょっとゲームというワードを聞いて思い浮かんだのが、最近シミュレーション系の対面でやったりするボードゲームだったりというものが、大分私の周りでははやっていて、よくＴＲＰＧとかと呼ばれていたり、そういう感じのゲームがあるんですけど、例えば、シナリオに沿ってやるゲームみたいなのを防災用にアレンジしてつくってみたりというのもありかなと思ったりしたのが、それだったら、中高生とかに向けてだったら大分やりやすいかなというのが１つ思いついたのと。
　逆に、それだと小さい子どもたちには難しい話にはなってくるので、そうなったときは、脱出ゲームみたいなのを企画して、もう会場でワークシートみたいなのをみんなに配って、こういうことが起きたとき、じゃあどうしようとなって、みんなで考えて、謎を解いていくみたいな感じでやっていくのも面白いのかなって思ったり、ビンゴカードみたいにして、逃げるときに必要なものはこれを持ったかなというビンゴを作っていくみたいなのもあってもいいのかなとは少し思いました。

市長：なるほど。少しゲーム性が必要ということですね。ありがとうございます。
　山口さんもそういうようなお話でしたよね。

山口さん：実は僕も子育て世代なんですよ。でも、２人の大西さんと違うのは、子どもがちょっと大きくて、上が高校１年生で、下が中１なんですよ。なので、子育て世代も多分、小学校とか幼稚園とか、それこそ赤ちゃんの子たちと、高校生とか大学生とかと、またちょっと違うと思うんですよね。それも意識したほうがいいのかなと思います。ちなみにうちの上の子は高１で、生田高校に行っているんです。遠いんですよ、結構。だからそこで被災したときにどうするんだみたいなのも、改めて、娘と話さなきゃなというふうに思いました。
　あと先ほどゲーム性という話があったんですけど、僕が言っていてなんなんですけど、１、０じゃないと思うんですよ。僕、デジタルを提案しましたけど、デジタルだけやっていればいいかというと、多分そんなことはなくて、やっぱりリアルとデジタルと両方必要だなと思っているんですね。ゲーム性で皆さん、結構、反応がよかったのでちょっとうれしくなっちゃったんですけど、ぜひ、板橋区長に提案なんですけど、今年度、川崎市制１００周年でいろいろお祭りがあったじゃないですか、イベントが。中原区も８月に大きなイベントをやったんです、お祭りを。あれはすごいよかったんですけど、区が主催してやるあの形って、やっぱりいろいろしんどいですよね。お金も時間も労力もかかるんで。なので、一応今年度で終わりですみたいなお話があったんです。
　でもそれはすごくもったいないなと思っていて、なので何が言いたいかというと、防災をテーマにしたお祭り、もうちょっと、防災ですと言うとあまり来ないんだけど、防災の観点で、それもアップデートできる、知識をつけるとか横のつながりができるみたいな形でお祭りと掛け合わせると、もうちょっと区役所の方も

やる気になるというか、やれるんじゃないかなというのと、参加者が増えるんじゃないかななんて思ったので、何かそういう形でサステナブルにできる活動ができるといいなと思いました。

市長：なるほど。楽しい防災フェスにしちゃうという感じですか。なるほど、いい話ですね。
　実際そういうのを、備えるフェスというのを毎年やっているんですけど、やっている会場が大体ラゾーナが多いですよね。でも来年度は違う場所、北部のほうに持ってくるとか、何かそんなような話を聞いたんですけど、でも面白い、いいアイデアですよね。デジタルとリアルと両方考えていく。いわゆる楽しさみたいなものを通じて、実際に自分はどういう状況なのかということを知ってもらうと。確かに、本当に、みんな同じ子育て世代といっても、大分違いますよね。状況によって。だから、自分は勤務地が東京、何々区なんていう、ぴっぴっぴっぴと入れていくと、あなたは大体この辺りはちゃんと考えておかないと駄目だよ、ぐらいのが出てくると面白いですけどね。ちゃんとできたものだけチェックしてくださいと。できていないものは駄目で、引き続き会議をやってくださいと、家族会議へというふうな形だとかですね。そういうのも、デジタルの世界と、それからアナログの実際のリアルに集まってやるという世界と、必要なんじゃないかというお話でした。
　ありがとうございます。冨吉さんお願いします。

冨吉さん：すみません、子育て世代というところで、私もタワーマンションのほうに住んでいるんですけれども、子育てといっても、やっぱり赤ちゃんの世代から小学校、中学校、高校といろんな世代の方がいると。マンションの中ですので、高齢者もいたり、いろんな世代の方がいるというところで、防災訓練をしたときに、どういう訓練になるかというと、非常階段で逃げるだとか、集まって生存確認をするだとか、そういったところが重きになってしまうんですけど、ただ実際、地震であったら在宅避難というのを、今はもう呼びかけている最中、集めちゃうので、何か目指すべきものと訓練が合致していないというのがあるので、本来であれば、地震だったら在宅してくださいよ、例えば火災だったら、上下階何階の人は逃げてくださいよとか、そういう場合分けが必要、あとは、さっき言った水害であったら上のほうに行ってくださいよとかというような話が出てくるので、１つの防災とくくっちゃうと、それが火災なのか、地震なのか、水害なのかでごっちゃになっちゃうので、そういったところを分けた防災訓練というのが必要なのかなと思っています。
　ちょっと僕も、先ほど国谷さんが発言された謎解きとかは結構いいなと思っていて、謎解きの中で、別に答えは１つじゃなくてもよくて、謎解きのスタートが地震だったら、火災だったら、水害だったらといったところで入っていくと、答えがそれぞれ違っていって、子どもたちにやらせたら、あれ僕、地震だったけど答えがこっちになったよ、在宅になったよ、僕は火災だったから、逃げる、ここに行くよになったよとかという感じでゲーム性を持たせながら、どういう災害だったらどういうことをしなきゃいけないか。これは本当に一人一人違うので、答えがこうですよというよりかは、きっかけを与えてあげて、各家庭、各個人で考える。自分がこの状況で地震だったらこう行動しなきゃいけないとか、火災だったらこう行動する、僕みたいに夜勤だったら、夜勤の間家族が家で、僕が仕事しているんで、その状況だったらどうするというのを、各家庭で状況が違うので、そういうものを考えるきっかけを与えてあげるということが、やっぱり訓練としては大事なのかなと。

市長：なるほど。すごい。ありがとうございます。みんな答えはそれぞれ違うから、その考えるきっかけをつくる、その機会を創出すればいいんだという。おお、ちょっと、もう目から何かいろんなものが落ちてきそうな、いや、視点をありがとうございます。
　笹田さん。

笹田さん：ありがとうございます。
　私も娘たちはもう２９、３０なんですけど、年子だったので、小さいときの子育てのときに、震災とか何かそういうイベントがあっても、大西さんではないんですけど、そこに出向いて行くとかはすごく大変だったという記憶があります。なので、そういったことを仕掛けてもらっても、多分出ていかなかったんじゃないかなと思います。
　私は今イベントをやっている側として、やはり揺れを体験できる車が出ましたよとかあるんですけれど、実際に来場の人たちって、響いてほしい人たちが来ているとは限らないというのも見ています。ですので、仕掛けて来てもらうんではなくて、せっかくお母さんたちが預けている保育園があったりとか幼稚園があったりするので、例えばそこに出向いていってお話をする。こういう映像を流す。私、思うんですけれど、子どもとお母さん、子どもとお父さん、ご家族で一緒に何か体験というか、見聞きするんじゃなくて、これって大人が危機感を感じたら、ようやく子どもに伝えられると思うんですね。
　私も３．１１を本当に経験したので、もう子どもたちを守らなきゃと、あのときは中学生、高校生だったんですけれど、やはり人間は、自分が経験しないと家族にも伝えられないし、子どもにも伝えられないので、一緒に防災訓練に行こうよじゃなくて、まずは保育園に出向いていって、お母さんたちに本当に危険なんですよと、さっき見せていただいたＶＲとか、あれをつけるだけでも、もう本当にすごいんだとかあるじゃないですか。マンションが揺れて倒れそうとか、それを見聞きした大人が家に帰って、同じ言葉で伝えなくても、本当に大変と思ったら、違う言葉で伝えられるんじゃないかなと思ったので、お母さん、お父さんが集まる場所に行って、まずは大人の方たちに、本当に大変なんですよという、そういう危機感を持ってもらうのがいいんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。
　そういう意味では、アウトリーチしていくことの大切さということですよね。これ、本当に誰が担っていくのかというのは、これはまた大きな課題ではあるんですけれども、ですから、本当に地域の防災リーダーの人たちというふうなのがもっと数が増えてくると、そういうアウトリーチによるものというのがどんどんできてくれば、もっときめ細やかにできてくるんじゃないかなというふうに思いますね。
　いかがでしょう、足したい方、どうぞお願いいたします。楠木さん。

楠木さん：私は専業主婦なので、皆様のＶＲとか、今はやりのゲームとか、そういうのを言われると、ちょっとすごい話が古くなってしまうのですが、やはり今大事なのは、人と人なので、３．１１のときも、私は学校に迎えに行ったんですけれども、結局迎えに来られないお母さん、お父さんもいて、マンションに帰ってきたときには、本当にお父さんもお母さんもいなくてずっと１人のお子さんがいて、その子を預かって、たまたまうちのマンションは電気、ガス、水道がついたので、ご飯も炊けたし、お風呂も沸かせるという状態で。子どもは、誰かお友達と一緒にいたり、大人と一緒にいると、その揺れて怖かったことを忘れてしまって、楽しく遊んでいるんです。パパが帰ってくるまでいられるという状態なので、そういう今はやりのゲームとかもすごく大事なんだけれども、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、お隣の人、そういうつながりを大事にして、もしも何かあったときは私が迎えに行くわねと、じゃあここに連絡するわねというのを、ゲームだけじゃなくて、大人の中のつながりで子どもを守るというのも大事なんじゃないかなと思います。

市長：それは本当にそうですね。

楠木さん：ゲームでそれを体験していくのもすごく大事だし、今現在、揺れていないので、揺れたらどうな

るというのを体験するのはすごく大事だと思うんですね。先ほどもＶＲで震度７の、一戸建てのというふうに見せていただいたんですけれども、あれはやっぱり揺れ方によって、建っている土地によって全然違って、うちは冷蔵庫も何も倒れなかったし、テレビも倒れない状態で、やっぱり揺れ方と状況で全然違うので、そういう怖いというのだけを体験させるだけではなくて、暖かいところもあるんだよというので、学校のほうから、うちは校外さんという役員の人がいたんですけれども、その校外さんのつながりだったり、あと、同じクラスの友達だったり、マンションだったり、地域のお隣さんとのつながりを、まずは大事にしたほうが、私はいいんじゃないかなと思いました。

市長：なるほど、ありがとうございました。
　ちなみに楠木さんが３．１１のとき、お友達も一緒に家に来なさいと言っていただいたときは、事前の取決めみたいなのというのはなかったですか。

楠木さん：いや、本当にあのときはもう何もなくて、ただ私が、学校のほうで役員とかもしていたので、どの子がいるというのが分かっていて、しかも私、校外をしていたので、このマンションにはどんなお子さんがいるというのが分かっていたんですけれども、その親御さんの連絡先は全く、今どき、個人情報というのがあって、教えられない。勤め先も、電話番号もというのがあったので、ただ、うちの息子に、ちょっと降りていって、様子を見て来て、お菓子を持ってといって、やっぱり１人だったというので、じゃあどうしようというと、お友達のところに連絡をしたら、たまたま連絡できるお父さんがいらっしゃったので、そこで、じゃあ家にというと、怖かった、余震というのがすごいので、その中で遊んでいたり、ちょっとお菓子を食べたり、テレビ見たりできるので、そういうつながりがやっぱり学校の中では必要かな。

市長：いや、すごい大事ですよね。もしこれが事前に、ある意味、私がこういう状況の場合にはうちの子どもをよろしく頼みますねという人がいたとすれば、事前に準備できていたとすれば、すごくいいですよね。大西さん、両大西さん、どうですか。そういうことは考えられますか。

大西（真）さん：私はマンション住まいなんですけれども、子育て世代はうちしかいないんですよね。なので、ほかに同じような境遇の方がいらっしゃったら、何かあったらうちで、お互いさまねみたいなのができると思うんですけれども、年配の方とかが多いので、ちょっとお願いしますとは、なかなかちょっと言いづらい。

市長：同じ学校とかクラスとか、何かでつながりのある方で、お互いに助け合えるかもというふうなのは、ちょっと難しそうですかね。事前の。

大西（真）さん：学校からは、書類が来て、引き渡せる人の名前を書いてください、ここに書かれていない方には引き渡しできませんというふうになっているので、そこは難しいと思うんですね。なので、お願いしますと、こっちと、直でやり取りしても、自分が学校に行けない限りは、そのお家にお願いするというのは難しい。実際、仲がいい子とかはいるんですよね。徒歩二、三分ぐらいのお家で、遊びに来たり、行ったり来たりしているお家はあるんですけれども、でも実際には、学校からは無理じゃないかなというのはちょっと思いました。

市長：でも登録していれば大丈夫ということですよね。

大西（真）さん：そうですよね。だから何とかさん、すみません、登録のところに名前を書いていいですか、うちの名前もどうぞ書いてくださいとかというのをやれば、できると思いますが、ちょっとそれをやる間もなく、書類は出しちゃいますね。

市長：なるほどね。

大西（絵）さん：私も全く一緒でして、幼稚園児は書く欄があったんですけど、小学校に上がると、ご近所で誰か引き渡せる人がいますかという項目がもうなくて、書く欄がないので、そもそも聞かれなかったというのが１つと、それから働くママさんが増えているので、基本的にはもうお母さんたちが話す機会がほぼないです。忙しいので、みんなもうお互い忙しいよねという前提なので、挨拶してさっと通るとか、ＰＴＡの活動もあるところはすごく減ってきているので、一緒に何かをするという経験が減ってきているような気がします。

幼稚園のママさんの横のつながりは非常に多かったんですね。私は割と少人数の働くママさんの、わりあいとレアなほうだったんですが、それでも積極的に何かあったら参加をして、コミュニティの中に入ろうかなというふうにしましたけど、これが保育園児もいたので、保育園児だったら、ほぼそういう関わりがなかったり、小学校に上がるともうほとんど、１年生からもうなくなりましたので。やっぱりお話を聞いてみると、皆さん働いていらっしゃるから、みんな忙しいから、いろいろな家庭の事情でということもあったりして、そうなると、どうやって誰を頼ったらいいかというのが全く分からない。だったらもう、職場とか近いところにいれば、職場の仕事の関係の誰かにというほうが、私としては楽だなと思うぐらいなので、家の近所でというと、私もちょっとぱっと出てこないなというのが現状ですね。これを抱えている方はいらっしゃる、多いんじゃないかなと思います。

市長：ありがとうございます。

なかなか難しいですね。ちょっと今、聞いておられて、阿出川さん、髙梨さん、何か感想じみた話でも結構なんですけど、いかがですか。

髙梨さん：子育てというと、いろんな年代の人がいるとさっきおっしゃっていたと思うんですよ。高校生ぐらいになったのを子育てというのか、小学生を子育てというのは全然違うと思うんだけど、親の立場からすると、みんな子どもだし、外に出ていると心配だという状態というのは、災害のときに必ずあると思うんですね。さっき楠木さんから、リアルのほう、デジタルじゃなくて、リアルのほうが大事というお話があったんだけど、親の、大人のほうが子どもを見守るんだというその雰囲気というのが、そのシーン、シーンでないと、やっぱり子どもは安心できないんだろうと思います。

商業施設というお話があったんで、じゃあグランツリー、無印良品が、震災があった場合の子どもに対するマニュアルがあるかといったら、ないんですよ。僕はだから必要だと思うんだけれど、ほかの子どもだろうが、お買物に来ている、そのまちを歩いているのは、我々が面倒を見るんだというようなコミュニティが世の中にないと、電車で移動中は、やっぱり電車の人たちが、移動する公共機関の人たちが見るのかとか。家族でお家にいる場合は当然親になりますよね。その辺を子どもにも、商業施設で何かあったらここで聞きなさいというような感じに世の中がなっていかないと、多分、親が安心しないし、子どももどこに相談したらいいんだろうという感じになってしまう。

当然、子どもなんて災害が起こるなんて思っていないから、いつも、こうなったらこうするんだよ、こうするんだよと言ったって、そんなの絶対覚えちゃいないだろうし。起こった瞬間に誰に世話になるのというのを明確にしてあげる、社会をそういうふうに発信していかないと駄目だろうと思いますね。だから、うち

の会社も、そのうち子どもに対してはこうだというのをちゃんと言えるようになっていけばいいんですけど、なかなかついていかないというのが現状でございます。

市長：なるほど、ありがとうございます。
　確かに、それぞれどこにいてもここは大丈夫だというふうな形になると、みんな急いで帰らなくてもいいし、急いで連絡を取らなくてもということになるんでしょうけど、なかなかそこまでにはハードルが高いというのが現状ですよね。
　いや、すてきなコメント、ありがとうございます。阿出川さん、いかがですか。

阿出川さん：今、お話を伺って、商業施設の立場としてまずお話をさせていただくと、我々の施設としても震災があった場合、避難基準として、例えば地震でいきますと、震度５強の震災があった際は、必ずもう全館避難、お客様、従業員含めて館外に避難をさせなければいけないという規定がございます。まずは地震が起こった場合は、震度５強であれば、必ずお客様を優先に、従業員の方々と協力しながら避難をさせるということでございます。
　しかしながら、先ほど髙梨さんからもありましたように、商業施設として、じゃあお子様は、ご年配の方はであったり、年代に分けた避難の基準というのはございません。なので、一律にお客様を避難させるということになっております。
　そうなった場合、我々としては全館避難させるんですけれども、外に避難させた後、そこから先、どうするかというのが一番不安なところといいますか、当然のことながら、お客様も外に出た後に、どこに行けばいいんだろう私、となってしまうと思うんですね。じゃあそうなったときに、広域避難場所の案内が施設の周辺にあるかどうかというと、ぱっと見て、目立つような場所にはありませんでして、じゃあそこから先の案内を誰がするんだろう、大人であれば多分、分かると思うんですけど、お子様、学生さんだったりとかも多く利用いただいておりますので、そういった子たちがしっかりとその辺りを把握されているかどうか、一番多分、その年代の方々が不安になるのかなと思いますので、そこは少し課題かなと感じております。

市長：そうですね。いや、ありがとうございます。
　震度５強ですか。すみません、外に出てくださいというと、真冬の寒さだったら、本当に大変なことになりますよね。だけどルールはそうなっているということなので、なかなかそれぞれのところがうまくアジャストしていかないと、ちぐはぐな話になりかねないというのは、課題がより顕在化してきたような感じがいたします。
　３人の若者なんですけれども、ちょっと今まで聞いていて、高校生の立場ということでもいいですし、今感じていること、自分が何かできるかな、あるいはそうでなくてもいいんですけど、これまでの話を聞いていて、課題なり、あるいはこういうところが新たな気づきがあったなということがあれば、少し教えていただけますか。
　井倉さん、お願いします。

井倉さん：自分は笹田さんの話を聞いて一番思ったのが、危機感を持つということが一番大事だと思っていて、結構前例というか、新型コロナウイルスのときとか、南海トラフ地震があと３０年以内に起こるとか、そのときに、新型コロナウイルスで初の死者が出てしまったときとかに、自分もなるかもしれないと思ったのがきっかけで、多分みんな広まっていたと思っていて。あと南海トラフ地震も、自分が遭うかもしれないという、そういった危機感を持ったから、そういったものが広まっていって、そこから防災をやろうだったりとかなったと思うので、危機感を、自分がなるかもしれないという当事者意識とか、危機感を持つという

ことが、一番大事なのかなというふうに感じました。

市長：ありがとうございます。すてきなコメントをありがとうございました。
　茅根さん、いかがですか。

茅根さん：防災訓練とかに参加する上で、子ども、高校生とか中学生とかはやっぱり面倒くさいなとか思いがちなので、みんな言っていたとおり、ゲーム性とか楽しさというのが、その訓練の中では大事、楽しさというのを取りつつ、災害が起きたときの行動とかを自分で考えられるようにしていかないといけないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。
　及川さんはいかがでしょうか。

及川さん：結構イベントとか、多分区とか市でやってくれているとは思うんですけど、それについて、やっていること自体を知らなかったりとか結構あると思うので、もっと学校にプリントを配ってみたりとかでも、イベントの周知とかをしたら、もっと高校生とか中学生、小学生も参加しやすかったりするのかなというふうに思いました。

市長：ありがとうございます。すてきな意見ですね。
　実は、この車座集会、最近、中学生とか高校生とか大学生も含めて、若い人たちに来ていただくことが多いんですけど、中高生なんか特になんですけど、やっぱり学校からの通知というふうなのじゃないとなかなか、１日通して学校にいる、家、学校、あと時々バイトというふうな生活の中だと、学校以外で情報を得る機会というのは、自分の趣味以外の情報というのは入ってこないということなので、学校にも情報があふれているんですけれども、学校を通じて、ある意味必要な情報をしっかりと届けていくということをやらないと、なかなか伝わらないんだというのは、最近の車座から多く学んでいることです。今、及川さんが言っていただいたことと、ほぼ同趣旨だと思います。ぜひそういった工夫もしていきたいなというふうに思っております。ありがとうございました。
　まだもうちょっと大丈夫ですか、あと６分ある。ありがとうございます。
　ちょっと今までのところで、板橋区長、いかがでしょうか。

区長：皆様、ありがとうございます。大変参考になりました。
　特にやっぱり、一番ちょっとショッキングだったのは、そうだろうなというふうに思っていたんですけど、大西さんとか、皆さんがおっしゃっていたように、訓練に参加するのはハードルが高い。我々としては皆さんが来やすいような訓練をやっているつもりだったんですけど、ハードルが高いんだなというのが、やっぱり皆さんの率直な意見ですし、高校生の皆さんはやっていることすら知らない、我々の周知不足ということも非常に感じました。
　改めてその点は、これから令和７年度訓練をするに当たってはしっかり考えていかなきゃいけない点だなというふうに思いますし、まさにそのハードルが高い訓練に参加するのは大変かもしれませんけど、冨吉さんがおっしゃったように、個人個人が訓練をするきっかけをこちらが与えることも重要なんじゃないかというのを、非常にいいアイデアだと思いました。具体的にどうするかというのはちょっとイメージがつかないんですけど、何か我々がそのきっかけを与えることによって、別に防災訓練の会場に来なくても、皆さんが個々のご家庭で、もしくは学校で、保育園でとか、それぞれ施設の中で訓練をしましょうというのもありな

んだなというふうに思いましたので、ちょっとやっぱり見方を変えていかないと。最初にこの話を市長とお話ししたときにも、２６万人が来る訓練は無理ですよねと、これはもう当たり前の話なんで、じゃあどこでやるか。ターゲットを絞るということと、きっかけを与えるということ、すごい私たちのこれからの、中原区の防災を強めていくために、いいアイデアをいただきましたので、ぜひこれを進めていきたいというふうに思いました。

市長：ありがとうございました。
　これは中原区だけの問題じゃなくて、全市の問題なので、全市の問題のところの最初の突破口を切ってくれた中原区なので、今回の車座で、実は、大体、車座をやると、なるほど、じゃあ次はこういうふうな展開をしていきましょうねという方向性がほぼ見えるんですけど、今回は、課題が顕在化したというか、もっとこれはやらないと駄目だということを気づかされた車座集会になったという意味では、大変意義の大きいものだと思います。
　ですから、そういう意味では、根本的にちょっと私たちの訓練というのを考えていかなくちゃいけない。訓練のための訓練になっていたみたいな話かもしれませんし、そもそも知らないとか、ターゲットが当たっていない、ここが課題だと思っているところにちゃんと刺さっていないというふうな課題というのを改めて考えさせられるいいきっかけになったというふうに思います。
　今区長が言ってくれたように、冨吉さんが、きっかけをつくると、それぞれの答えというのは、あのタイムライン１日だけだって、自分自身だって何通りも答えがあるということなので、それを考えるきっかけというふうな、どういうふうにしたら一人一人に伝わっていくのか、その手法についてより深く考えていかないといけないなと。そのアプローチを考えたいというふうに思っております。
　大体、今日の締めというのはこういうことなんですけれども、ちょっと物足りなさがあったかもしれませんけれども、あえて今日、もう１回しゃべっておこうかなと。あと３分ぐらいあります。お願いします。

髙梨さん：無印良品です。最後宣伝させていただいていいですか。
　ちょっと持っていてもらっていいですか。
　今ハードルを下げるというお話があって、ぜひ当社のような、いわゆる民間の企業を使って、お客様にというか、市民、区民の方にそういった時間を、きっかけを与えていくような場所にお店がなればいいなというのをずっとやっていまして、こういう暮らしの備えという、我々はいつものもしもと呼んでいるんですけれども、災害というのは、とにかくいつ来るか分からない。どのタイミングでもその対応ができるようなイメージトレーニングじゃないんですけど、そのチャンスみたいなのを持ちませんかというのを、商品や提案をして、お店でやっていますので、ぜひその辺をきっかけに使っていただいて、これから中原区や川崎市が無印と一緒にうまくやっていければなというふうに思って、宣伝でございます。チラシを持ってきましたので。

市長：ありがとうございます。これ私、この前もいただきました。これは非常によくできていて、先ほどのレトルトもそうですけど、私の家庭でも無印のレトルトを大分備蓄しておりますけど、食べて備蓄してということを、ローリングストックを重ねていますけど。
　私たちも、行政としても、全部行政がやるというふうな話ではなくて、やっぱり企業の皆さんだとか、先ほど山口さんのこともありましたけど、ＩＴの企業も含めて、いろんなソリューションを持っておられる方がいらっしゃるので、自分たちはこういうことをしたいんですというふうなことに対して、ソリューションを持っているのが企業だったり、団体の皆さんだったり、市民の皆さん、高校生、大学生だったりするので、それを最適化するというところに重きを置いて、課題、今日もたくさん出ましたので、その課題に１つ１つ

取り組んでいきたいというふうに思いますし、今日はもうほぼ年度末ですから、来年度、令和７年度に向けて中原区が先陣を切ってアップデートしていくという取組に、今日はご協力いただきました。心から感謝申し上げたいと思います。本当に今日、日曜日の午前中、大変貴重な時間いただきまして、ありがとうございました。

＜閉会＞
司会：福田市長、参加者の皆様、長時間にわたり意見交換していただきありがとうございました。
　以上で意見交換は終了となります。
　それでは、閉会に移ります。閉会に当たりまして、実は市長から総評と思ったんですけど、先ほどいただきましたので、こちらで終わりにします。それではこれをもちまして第７５回車座集会は終了となります。皆様、ご協力いただきましてありがとうございました。